

獨協医学会

会 長 稲 葉 憲 之 (獨協医科大学学長)

運営委員会委員

簀持 淳*	石光 俊彦**	秋山 一文	阿部 七郎	安西 尚彦
石井 芳樹	片桐 一元	黒須 明	桑島 成子	小島 勝
小嶋 英史	小林 哲	鈴木 純恵	田中 康広	千種 雄一
土岡 丘	中元 隆明	西山 緑	濱口 眞輔	春木 宏介
平林 秀樹	前川 正夫	緑川由紀夫		

*委員長 **副委員長

Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

石光 俊彦*	千種 雄一**	阿部 七郎	安西 尚彦	石井 芳樹
小島 勝	田中 康広	中元 隆明	濱口 眞輔	

*委員長 **副委員長

編集事務員

鯉沼 行子

編集後記

Dokkyo Journal of Medical Sciences Vol.42, No. 3 (獨協医学会雑誌 第42巻3号)をお届けいたします。今回は原著5編、その他1編です。特集は「国境を越える感染症」と題して10編の論文を頂きました。昨夏に代々木公園から発生したデング熱や、昨年から西アフリカで流行したエボラ出血熱(エボラウイルス病)や、今年の韓国で流行したMERSなどが取り上げられております。観光立国を目指すわが国には、国際的観光地である日光が栃木県にあります。私たちが海外からの観光客で、今回取り上げた感染症患者に遭遇する可能性がないとはいえません。疫学、診断、臨床所見などがわかりやすく記載されており日常診療に役立つものと考えられます。

私はリンパ節病変を研究する病理医の立場で今回の特集について思ったことをいくつか書かせていただきます。日本人が見つけた病気で世界中に知られているものの1つに壊死性リンパ節炎(菊池病)があります。菊池昌弘先生(前福岡大学副学長)が1970年代前半に提唱された疾患で、若い年代に発症し、発熱とk頸部リンパ節腫脹を主とし、4000/ μ L以下の白血球減少を来す疾患です。昨年、防府市を訪れたときに、当時、山口県立医療センターの検査部長であられた亀井敏明先生にSFTSの解剖例を見せていただきました。驚いたのはある時期の菊池病のリンパ節病変に酷似していたことです。菊池病は1990年代の終わりからごく稀に死亡例があることが知られていました。その中には悪性リンパ腫も含まれていたと思いますが、ひょっとしたらSFTSがそのころから存在していたのかもしれないと思うことがあります。菊池病は50歳以上に発症することはごくごく稀とされており50

歳以上で病理から菊池病の診断が届いても他の疾患を考えたほうがよいかも知れません。SFTSの剖検例の2例報告が病理学会の英文誌, Pathology International 2014; 64: 569-575に掲載されています。

もう1つは血球貪食症候群です。1970年代後半にRisvallらによりウイルス関連反応性血球貪食症候群として提唱された疾患です。提唱時はEpstein-Barrウイルスなどのヘルペスウイルスが原因とされましたが、後に結核などの細菌、真菌やLeishmaniaなどの寄生虫感染でも血球貪食が起こることが明らかにされました。さらに薬剤や、SLEなどの自己免疫疾患、悪性腫瘍でも発生することも明らかにされました。全身の網内系臓器の組織球が活性化され、血球貪食による血球減少、発熱や肝不全、腎不全をきたす疾患です。ずいぶん前ですがデング熱で血球貪食症候群を来した症例の報告例を見たことがあります。

最後になりますが今年は戦後70年になります。先日の台風が観測史上最高の風速を記録したと報告されました。終戦の年、9月17日に大型の台風が九州から広島県を襲い、大きな被害が出ました。広島県の大野浦の陸軍病院が山津波に襲われ、原子爆弾の被害を調査・研究に行っていた京都大学の医学部と理学部からなる研究班に多数の死者が出たそうです。死亡者の中には原爆患者さんの詳細な剖検報告を行った病理学教室の教授も含まれていたとのことです。わが国は今、安全保障法案でゆれています。あのような悲惨な戦争と戦後直後の悲劇が起こらないことを祈りつつ、そして大きな台風の被害が起こらないことを祈っています。(小島 勝)

2015年10月20日印刷

第42巻 第3号

2015年10月25日発行

編集発行人

獨協医学会

稲 葉 憲 之

発行所

獨協医学会

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地

獨協医科大学

Tel (0282) 86-1111 (内線2009)

製 作

教 文 堂

〒162-0804 東京都新宿区中里町27

Tel (03) 3260-6136